研究推進校事業報告書

〈取組の成果とポイント〉
・研究授業や公開授業、外部講師を招いての勉強会を始め、教材を吟味してさまざまな授業展開から、生徒の実態に合わせて授業をつくることに挑戦してきた。その結果、うまくいかなかったことや手応えを感じたことなどについて、教員が情報交換したり相談したりする場面が日常的に見られるようになった。教員が問題意識をもって実践し、反省を他の教員が生かしていこうとする姿勢が見られるようになった。

１　推進校（又は推進地域）の概要

学　校　名	所　在　地	電　話	生　徒　数
半田市立半田中学校	半田市岩滑東町５丁目８０番地	0569(21)0872	８７９名

２　研究課題

数年前まで一部生徒の問題行動により学校が荒れていた。そのため、生徒指導上の問題への対応に追われて、教科指導や道徳教育について、研修の機会をなかなか設けることができなかった。また、職員の年齢が若く、経験の浅い教員の割合が高いこともあり、道徳教育の要である道徳の時間が、十分にその役割を果たしている状態ではない。

そして、学校評価における意識調査において、以下の項目に、教員・生徒の意識に差が大きく見られる。

○「ものを大切にする」「公共美化」
○交通マナー
○各種当番活動，係活動，ボランティア活動への取組

集団の一員としての自覚や社会連帯への思い、公私の区別、公徳心などについて、本校生徒の多くには、十分な道徳的実践力が身に付いていないと思われる。

３　研究主題とその設定理由

（１）研究主題

「道徳教育の要にふさわしく、教科化に耐えうる道徳の時間の創造」

（２）主題設定の理由

生徒指導上の問題に追われ、道徳教育についてもほとんど取組らしい取組ができていなかった本校が、道徳の教科化を迎えるに当たっては、何をおいてもまず、道徳の授業が普通に行われることが第一目標と言わざるをえない。

道徳教育は学校の教育活動全般において行うと言っても、授業として行われる道徳の時間が中核（要）となることは間違いない。ましてや教科化となればその質においてもこれまで以上のものが求められる。

道徳の授業を考えるに当たって、資料をどのように読み取り、どんな発問、どんな展開にしたら生徒は考えを深めていけるのか、そうした経験をしたことがない本校教員たちが、普通に道徳の授業ができるようになるためには、新学習指導要領の理解からさまざまな道徳の授業実践を繰り返すまで没頭していかなくては、教科化の完全実施に間に合わないと考え、本主題を設定した。

４　研究の概要

（１）研究の内容

○道徳教育についての理解を深めること。
・学習指導要領の解説編を読み、道徳教育の内容について理解を深める。

・外部講師（元文部科学省教科調査官・現東京学芸大学教授　永田繁雄先生）をお招きして、学習指導要領の求めることについて、御講演いただく。

○道徳の時間の授業研究会を開く。

・年間１０回以上の研究授業・授業研究会の開催

・外部講師（元文部科学省教科調査官・元日本道徳教育学会会長　横山利弘先生）をお招きして、授業の在り方について指導助言いただく。

○道徳の時間の公開及び一斉公開

・学校公開日に保護者・地域の方、関係諸機関に道徳の時間を一斉に公開する。また、日常的に道徳の時間を公開する。

○道徳教育全体計画・年間計画の改定

・道徳教育全体計画・年間計画を見直し、改定する。

○教科指導における道徳教育の充実

○体験活動の充実

（２）求める研究成果

○教員個々の道徳の時間の指導力向上

○生徒の道徳性の向上。

特に、課題である道徳的実践力（４の視点　（１）集団の一員としての自覚や（２）社会連帯への思い、公私の区別、公徳心）の醸成

（５）研究計画

月	実施内容	備考
年間	月１回の研究授業	少経験者
年間	全体計画・年間指導計画の見直し	推進チーム
４月	学習指導要領勉強会	全職員
４月	道徳の時間の一斉公開	全担任
６月	特別研究授業・授業研究会	全職員
９月	道徳の時間の一斉公開	全担任
９月	特別研究授業（外部講師・横山先生をお招きして）	全職員
１１月	特別研究授業（外部講師・横山先生をお招きして）	全職員
１２月	学習指導要領勉強会（外部講師・永田先生をお招きして）	全職員
２月	市内小中学校へ研究成果伝達	
３月	まとめ	

５　これまでの取組と成果

（１）保護者への授業公開（平成 27 年４月 27 日（月））

ア　目標

○生徒が主体的に話合いをする授業
○生徒個々が、話合いを基にして、道徳的価値についての考えを深める授業
○保護者が、道徳の時間の意義・意味を感じられる授業

イ　目標を達成するための手だて

○公開する全ての学級の主題を「思いやり」とする。

○全ての学級で、**<u>討論の柱を立てた授業展開</u>**を行う。

ウ　手だて設定の理由（なぜ、主題を「思いやり」とし、討論の柱を立てる授業としようとしたか。）

思いを行動に移すことは難しい。なぜなら、思いを行動に移す方法が、さまざま想定できるからだ。

たとえば、「相手のことをかわいそう」と思ったときを想定してほしい。

・そっとしておく
・そばにいる
・声を掛ける　等々

さまざまな方法が考えられる。どれも正解であるようで、正解だと言い切れない。それは、Ｔ・Ｐ・Ｏ（時・場所・機会）や相手との関係性によって、相手の受け止め方が変わるからだ。実際、「思いやり」と「おせっかい」は、紙一重とよく言われる。

しかし、自分以外の人間と人間関係を良好に保つとともに、自分自身もよりよく生きていくためには、「思いを行動に移す方法がいろいろあることを知った上で、ＴＰＯや相手との関係性によって、自分なりに正解を見つけて行動する」ことが大切である。

そこで、現実と同様な場面を想定できる資料を提供し、「行動を問う」話合いをさせようと考えた。そうすることで、思いは同じであっても、行動に違いが出ることに気付かせることができる。また、「行動を問う」話合いの後に、それぞれの主張の根拠に焦点を当てることによって、「根拠」と「他の道徳的な価値との関係性」や「根拠」と「相手との関係性」等について、見つめさせることができるのではないかと考えた。

エ　実践例

○資料名「カーテンの向こう」
→中心発問「私は、今後どうするだろう？」
□事実を正直に告げる
□前任の者と同じように嘘をつく

○資料名「最後の贈り物」
→中心発問「ジョルジュじいさんの行動は、ロベーヌのためになったのだろうか？」
□なった　　□ならない

○資料名「おばあちゃんの指定席」
→中心発問「この少女は今後も迷いなく身体の不自由な人に席を譲れるだろうか？」
□譲れる　　□譲れない。

○資料名「地図のある手紙」
→中心発問「一郎にどこまで伝えることが、思いやりといえるだろうか？」
□読むことが思いやり　□読まないことが思いやり

オ　考察

担任教員の授業の力量の差が明確となった。

日頃の教科指導において、講義的な授業を展開している教員にとって、討論を仕組む、思考を深めさせるような授業展開は、未知の世界であり、十分に生徒の反応に対応できていない。

（２）授業公開・授業研究会（平成 27 年６月 18 日（木））

ア　目標

○生徒が主体的に話合いをする授業
○生徒個々が、話合いを基にして、道徳的価値についての考えを深める授業
○教員が、道徳の時間のさまざまな展開の仕方を知るきっかけとする。

イ　目標を達成するための手だて

○さまざまな手法で、授業を展開する。
○**一つの資料に対して、複数の授業展開**の方法を考える。

ウ　なぜ、こうした取組をしようと考えたか？

道徳の時間の手法は、さまざま開発されてきている。
しかし、実際には、そうした手法を知らない教員も多い。

そこで、そうした手法の存在を知るために、一つの資料に対して複数の指導展開を考えることにした。

たとえば、一つの資料であっても、次のように授業構想することができる。

○資料の登場人物の心情に深く共感し、「道徳的な変容に着目」する授業

○資料における「道徳的な問題に着目し、問題解決を図るための手だて」を考える授業

○「討論の柱を設定」して話合いを活発化させ、多様な意見を引き出す授業

これらの手法を、主題や授業を行う学級の実態を踏まえて選択し、実践することが望ましいが、「どの手法が生徒の実態に合っているのか」「どの手法がねらいに迫るために有効なのか」、そうしたことを判断できない教員が多い。

そこで、「一つの資料に対して、複数の授業展開をする」ことを手だてに掲げ、さまざまな授業展開に挑戦することにした。

エ　実践例（１年生）

○主　題　遵法の精神　４－(１)

○資料名　「時間よ戻れ」　(文部省　道徳教育推進指導資料(指導の手引き)６から)

○中心発問

○「主人公(洋子)は、会議？事故？どちらを選ぶべきだったのでしょうか？」
(主人公の行動の是非を問うことで、主題に迫ろうとする発問)

○「正義感に基づいて行動したのに、後悔する必要があるのだろうか？」
(主人公の気持ちに寄り添いながらも、道徳的に正しい行為をするために必要だと思われる内面的な力を引き出そうとする発問)

オ　考察

「生徒が、資料をどのように受け止めるのか？」

「生徒が、どのように発問に、反応するのか？」

授業以前に、こうしたことを十分に予想して、授業に臨むことが大切である。

そして、授業では、予想の範囲を超えて、反応する生徒の言葉・発言に真剣に耳を傾けて、話合いを作り上げるとともに、主題に迫っていく。

そうした技量が十分に身に付いていない中での挑戦であったが、さまざまな発問が構想できることに、面白みを感じ始めた先生も現れ始めた。また、発問によって、生徒の反応が違ってくることに気付き始めた先生も現れ始めた。そうしたことを大切にしたい。

（３）授業公開（平成 27 年９月７日（月））

ア　目標

○生徒個々が、話合いを基にして、道徳的価値についての考えを深める授業

○**問題解決的な道徳の時間の展開**について考える。

イ　目標を達成するための手だて

○問題解決的な道徳の時間の展開（案）

・資料における道徳的な問題に着目する。

・道徳的問題を解決する方法を想定する。

・解決方法について、分析する。(メリット・デメリットについて考える)

・道徳的に正しいと思われる解決方法の良さについて考える。

・解決方法の良さを実感する。

・解決方法の良さについて、自身の内面を振り返る。

ウ　なぜ、こうした取組をしようと考えたか？

今回の学習指導要領改訂で、これまでの学習指導要領と最も大きく違うことは、道徳の時間で育成する力として、「道徳的な判断力」が一番前に記述されたこと。そして、「自覚」という文言が「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「(人間としての生き方について)

考えを深める」という文言へとされたことである。

しかし、「自覚」という文言には「自己を見つめる」「考えを深める」という意味合いもあるので、強調されたことは「多面的・多角的に考える」ということになろうか。

つまり、「道徳的な判断力」が育成されるような授業、生徒たちが「多面的・多角的に考え」ようとする授業を、今回の学習指導要領は目玉としている。

では、生徒が「物事を多面的・多角的に考える」ためには、どんな授業展開をすればよいのだろう。

たとえば、ブレインストーミング、ＫＪ法、NM法、マッピング手法などの手法が生かされる授業であれば、「物事を多面的・多角的に考える」ことが可能となろう。

また、いわゆる問題解決的な授業展開や探求的な学習活動でも、「物事を多面的・多角的に考える」ことが可能となろう。

ということで、「物事を多面的・多角的に考える」ための方法はさまざま想定できるが、その中の一つである（道徳の時間の）「問題解決的な学習」に挑戦することにした。

エ　実践例（２年生）

１　主題名　遵法の精神　４－（１）

２　ねらい

規則やルールの範囲と適用の在り方について考えることを通して、法やきまりの意義についての考えを深める。

３　資料名　「雪と落葉」（文部科学省道徳教育推進資料）

４　学習過程

○資料に書かれた雪かきや落葉片付けの方法をどう思いましたか。

・すごく合理的

・そこに住む人にはとてもよい。

◎雪かきや落ち葉を片付けない人に対する罰の在り方について考えよう。

○事情を加味して、法律やルールを作ったことについて

・明文化してないともっとずるい人が出る。仕方ない。

・弱者を救済するという意味が、法律には含まれている。仕方ない。

○法律上に明文化されていない「仲間はずれ」という制裁の在り方

・守るべき事をちゃんと守らないのだから、そうした制裁の在り方も仕方ない。

・法律にない制裁を加えたとしても、本人が自覚をしなければ無意味。

・「仲間はずれ」＝「いじめ」、そんな街には住みたくない。

○住みよい社会をつくるためには、どんな心構えが必要なのだろう。

・個人としての責任をしっかりと果たそうという気持ちをもつ。

・自身が集団の一員としての自覚

オ　考察

○資料から離れた道徳的な価値についての話合いの時間を十分に確保できるようにしたい。

○授業に参加したくなるような仕掛けがほしい。

○問題解決方法の話合いから、道徳的な価値についての話合いにいかにつなげるかが、問題。

○級友の意見から刺激を受けるような授業を仕組みたい。

○資料中の登場人物の心情に寄り添う形の授業展開もぜひ大切にしたい。

○話合いを活性化させるためには、相互指名やグループワークなどが必要なのでは？

○生徒の意見を共感的に受け止める担任の先生の授業に感心した。

○評価の在り方を考えていきたい。

○問題解決的な授業では、資料の中からどのように問題を見つけさせるかが鍵となるのでは？

○子どもの実態に即した授業展開を考えるようにしたい。

○資料の解釈・理解を、確実に行うようにしたい。

○教師の立ち位置をしっかりと意識して、授業を展開するようにしたい。

○道徳的判断力の育成も大切だが、道徳的心情も大切であることをしっかりと意識したい。

（４）講師を招いての授業研究会（平成 27 年９月 17 日（木））

ア　目標

○生徒が主体的に話合いをする授業 ○生徒個々が、話合いを基にして、道徳的価値についての考えを深める授業

イ　目標を達成するための手だて

○対立軸を作って話合いを進めながらも、筆者の心情に寄り添い、道徳的な価値に迫る。

ウ　なぜ、こうした取組をしようと考えたか？

さまざまな手法を試してきたことを踏まえて、生徒の実態に即した授業展開をすることを構想する。

エ　実践例（２年生）

１　主題名　強い意志

２　ねらい

「うれしさ」の違いを考えることを通して、自身で考え、自身でやり遂げることの意味ついて考えを深める。

３　資料名　「金メダルより大切なもの」

４　学習過程

＜導入＞

○結果が「よい」・「悪い」、どちらが「うれしい」ですか。

・結果がよい方が、絶対に「うれしい」。

＜展開＞

◎「うれしさ」の違いについて考えよう。

・順位がよい方（結果がよい方）が、「うれしい」

・順位に関係なく、やり切ることの方が、「うれしい」

・努力すればするほど結果を期待してしまうから、順位がよい方が「うれしい」

・「うれしさ」は自分の心の問題、他人にとやかく言われることではない。

補「なぜ、そう思えるのか？」

・目標を立てて、それに向かって努力「する」・「しない」は、自分の問題だから。

・障害や困難があったとしても、それを乗り切ろうと「する」「しない」は自分の問題だから。

・結果が出ればそれにこしたことはないが、結果が出なくても、自分自身を納得させられる。

オ　講師（元文部省教科調査官　横山利弘先生）からのご指導

＜授業について＞

○生徒が資料の世界を我がことのように捉えられるようにしたい。今回の授業は、生徒たちが、十分に資料の世界に浸れていなかった。授業者自身が資料に入り込むとともに、資料をしっかりと読み解くことを大切にしたい。

○「うれしさ」の違いは、結果重視と過程重視という基準の違いである。そのことを道徳的な価値に結び付けることに無理があったように思う。

○結果を求めて努力する大切さを生徒たちは知っている。そして、結果を出せなかったときの悔しさも経験している。そうした理解や経験だけの羅列では、新たな発見は生まれない。

○対立軸を設けて授業を展開すると、話合いが活発となるように見えるが、道徳的な価値に

結び付けることは、それなりの技量が必要となる。
○助言の構図のある資料を使って、登場人物の心情の変化を丁寧に追っていくような授業を基本にして、授業実践に取り組みたい。
＜道徳の教科化に向けて＞
○平成３１年度の完全実施に向けて、学習指導要領の改定、指導要領解説の発行等、文科省は着実に準備を進めている。そうした動向に乗り遅れることのないよう、指導力を高めていってほしい。
○指導要領の改訂についてさまざまな情報があるが、道徳の時間の特質を大切にして、実践に取り組んでほしい。
○教科化によって、評価が問題となることが予想される。客観性のある評価ができるように授業を充実させるようにしたい。
○授業力を向上させるためには、学年でローテーションを組んで授業を実践するなどの方策が必要となろう。

（５）講師を招いての授業研究会（平成 27 年 11 月 12 日（木））

ア　目標

○生徒の実態に即して、道徳的価値についての考えを深める授業

イ　目標を達成するための手だて

○生徒の実態、主題、自身の技量を踏まえ、ねらいに迫るためにふさわしいと思われる手法で、授業を展開する。

ウ　なぜ、こうした取組をしようと考えたか？

さまざまな手法を試してきたことを踏まえて、生徒の実態に即した授業展開をする。

エ　実践例

＜１年生＞
１　主　題　感謝　Ｂ－６
２　ねらい　感謝の意を示すことの尊さについて、考える。
３　資料名　「ある元旦のこと」
４　学習過程
○どんな時に感動しますか？
◎なぜ、主人公は「感動」したのか？「感動」の正体を明らかにしよう！
○「感動」に至る状況の確認
○「感動」後の心情の類推
○「感動」の正体は？
○「感動」の正体について、どう思う？

＜２年生＞
１　主　題　生きがい　Ｄ－２２
２　ねらい　生きがいを感じられる生活を送ろうとする意欲をもつ。
３　資料名　「在校生へのメッセージ」
４　学習過程
○将来の夢はありますか？
○在校生へのメッセージを話す前はどんな考えをもっていた？
◎主人公は、今後、後ろ向きになることはない？
○後ろ向きになってしまいそうなとき、前向きになるためには何が大切？
○参考になった考えはある？
＜３年生＞
１　主　題　よりよい社会　Ｃ－１０

２　ねらい　社会の一員としての在り方について考えを深める。

３　資料名　「油が淵の釣り人」

４　学習過程

○油が淵の写真を見る。

○市長への手紙を読んだ主人公はどんなことを考えた？

◎主人公はなぜ「よどみ」を感じたのか？「よどみ」の正体を明らかにしよう！

○言葉「よどみ」の意味を知る。

○八郎じいさんの要望に応えたのに、なぜ「よどみ」が残るのか？

○主人公の感じた「よどみ」とは何？

○「よどみ」を解消するために、どんな生き方をすればいい？

○資料の理解を深めて感じたことは？

オ　講師（元文部省教科調査官　横山利弘先生）からの御指導

○教材を深く読み取るようにしたい。

そのために、場面と心情だけでなく、道徳的な問題・道徳的な価値に注目して、教材を読み深めるようにしたい。

例　「背番号 10」

□甲子園に出場することを目標に、強豪校に進学（向上心）。

□２年生の秋から、キャプテンを任される（向上心、責任、集団生活の充実）。

□春の選抜への出場がだめになった段階で、チームは目標を喪失する（希望・勇気）。

□そんな中でも、主人公はキャプテンとしての責任を感じ、チームを鼓舞しようとした。（責任、集団の一員として）

□しかし、そうした姿勢は伝わらず、チームは停滞（集団生活の充実）。

□そして、自身も肘を疲労骨折し、野球ができなくなる。２度目の挫折（希望・勇気）。

□「野球を辞めたい」と父に相談。しかし、父は挫折を乗り越えようとしない姿勢をとがめる。（生きがい、向上心、誠実）

□自身の考え方を振り返る（誠実、向上心、集団生活の充実）。

□チームを支えることに徹し始める（集団の一員として）

□夏の大会を前に、監督から背番号 10 を授かる。

そのことをチームメイトは、拍手で祝福する（感謝）。

……以降　略。

○教材の多くは、「助言の構図」となっている。「助言」の前後に注目したい。

資料分析をして分かるとおり、主題として取り上げる道徳的価値以外にも、焦点を当てる人物の考え方に影響を与えている道徳的価値があることを自覚しておくようにしたい。

○「遠回しの説教」のような道徳の時間とならないようにしたい。

「道徳的価値の理解に基づき、人間の生き方についての考えを深める」時間となるように努力してほしい。

○人間のすばらしさ、人間のよさを感じ取らせ、人生を鼓舞するような時間の創造をしてほしい。

○授業づくりに当たって

・生徒の反応を受け止める姿勢が大切

・導入は極力短くしたい。

・板書に書く言葉は生徒の反応を反映したものでありたい。

・資料をしっかりと読み、自信をもって授業に臨みたい。
・正しいと思われる行動を生徒に求めることは、道徳の時間としては妥当ではない。
・話合いが十分なされることで、主題へと迫っていける。

（６）講師を招いての授業研究会（平成 27 年 12 月４日（金））

ア　目標

○　教科化に耐えうる道徳の時間を構想する。

イ　目標を達成するための手だて

○　主題や生徒の実態に合わせて、「討論の柱の設定」「問題解決的な授業展開」「資料に沿った授業展開」等の手法を選択して授業を展開する。
そのために、
・資料をしっかりと理解（分析）して授業に臨むこと
・一人一人の反応を大切にする（聴く）。
・生き方・考え方について話合いを展開する。

ウ　なぜ、こうした取組をしようと考えたか？

これまでの実践・研修の成果を試す。

エ　実践例

＜１年生＞

１　主　題　相互理解　Ｂ－９
２　ねらい　互いの個性や立場を尊重する態度を育成する。
３　資料名　「茂の悩み」
４　学習過程

○試合に出たことはありますか？
○主人公「茂」の悩みを確認する。
○想定できる状況のメリット・デメリットを考えよう。
・正夫をレギュラーとして使う場合
メリット・デメリット
・雄一郎をレギュラーとして使う場合
メリット・デメリット
◎茂は部員にどう話せばよいだろう。
○授業で参考になったことは？

＜２年生＞

１　主　題　家族愛　Ｃ－１４
２　ねらい　家族の一員としてよりよい家庭を築いていこうとする気持ちを高める。
３　資料名　「一冊のノート」
４　学習過程

○認知症について知る。
○ノートを見る以前、祖母に対してどんな思いをもっていた？
○ノートを見た後、祖母に対してどんな思いをもったでしょう？
◎祖母が再び迷惑を掛けたとき、主人公はどうするだろう？
・文句を言う？
・そのまま受け入れる？
○家族の一員としてどんな気持ちをもつことが大事？

＜３年生＞

１　主　題　希望・勇気　Ａ－２
２　ねらい　希望をもち生きることの大切さに気付く。

３　資料名　「やさしいうそ」

４　学習過程

○資料で取り上げる人物について知る。
○主人公の生き方をどう思った？
○主人公と同じ立場であったなら、どう？
○障害を負っていたから、主人公は「やさしいうそ」をついた？
◎主人公はなぜ「やさしいうそ」をつき続けたのか？
○改めて主人公の生き方・考え方を振り返ろう。

オ　講師（元文部科学省教科調査官　永田　繁雄先生）からの御指導

○授業を参観していただき、以下の点についてご指導いただきました。

・生徒の心のプラス志向を生かす。
…生徒がよくなろうとする意識を大切にした授業を展開しよう
・本来の授業の在り方を重視する
…道徳が生かしてきた共感性を大切にした授業を展開しよう
・発問の多様な立ち位置を生かす
…発問の角度を多彩にもって問題追求を生み出す授業を展開しよう
・話合いを一層練り上げる
…補助発問などを生かして価値観を深く耕す授業を展開しよう
・多彩な引き出しを効果的に生かす
…書く活動や板書の工夫などの配慮で個に応じる授業を展開しよう

○講演「『特別の教科』時代の道徳授業に求められるもの」

＜ご講演の概略＞

□「特別の教科」時代の道徳教育を考える
・なぜ、「特別の教科」として新たに位置付けられたのか？
・学習指導要領の一部改正で大きく変わったところは？
・今後どのような見通しで行われるのか？
□活力と弾力のある授業への一層の改善を図るために
・「筋肉質」の道徳授業をつくろう。
・目標・留意事項から示唆されるこれからの授業の姿
・そのための三つのポイント「主体的」「協働的」「能動的」
□子どもが多面的・多角的に考えを深める授業
三つのポイント
・場面に着眼するか？テーマに着眼するか？
・発問の大きさ
・発問の立ち位置
□教材分析・教材吟味

カ　授業者が学んだこと

○授業者の手応え

・指導案づくりに時間をかけた分だけ、生徒の考えを受け入れながら落ち着いて進めることができた。
・心情、「作文」資料を取り扱う場合は、素直に感想を求める手法があることに気付いた。
・資料を読み込む中で何種類かの指導案をつくり、学級の実態に合ったものを選択できた。
・複数の方から助言をいただき、よりねらいに迫る発問を考えることができた。
・二項対立の授業に挑戦したことで、授業づくりの幅が広がった気がする。
・意見が偏ったときにはうまく反対意見に肩入れし、話合いを深められたような気がする。

○授業者の課題

・自分がついしゃべり出してしまうことが課題
・想定外の反応にまだ戸惑うことが多い。共に考えるというスタンスを忘れずにいたい。
・「レールに乗せる」、「言い放しで終わる」。自分の授業はまだそんなレベルである。
・生徒の話合いを広げる・深める力量が自分にはまだない。
・「もしも、自分がその立場なら」という問い返しは、生徒に真剣味を与えた。
・教材研究不足を痛感した。

６　研究の評価

（１）研究の成果

○　教師個々の道徳の時間の指導力向上については、向上したとは言い切れない部分が多い。しかし、研究授業や公開授業、外部講師を招いての勉強会を始め、日頃の道徳授業を通して、多くの教員が学んだことは多いと感じているようである。

教材を吟味し、さまざまな授業展開から、生徒の実態に合わせて授業をつくることに挑戦してきた。その結果、授業実践の中で、うまくいかなかったことや手応えを感じたことなどについて、教員が情報交換したり相談したりする場面が日常的に見られるようになった。

教員が問題意識をもって実践し、反省を他の教員が生かしていこうとする姿勢は、これまで見られなかったことであり、大きな変化であると言える。

（２）今後の課題と取組

○　研究課題であった生徒の道徳性の向上について、７月と１２月に行った学校評価アンケートの結果を分析した。以前の調査では、集団の一員としての自覚や社会連帯への思い、公私の区別、公徳心などについて、本校生徒の多くには、十分な道徳的実践力が身に付いていないと思われた。「ものを大切にする」「公共美化」「交通マナー」についての項目で、教員の評価は低く、生徒の自己評価は高いという意識の差は縮まっていない。「各種当番活動、係活動、ボランティア活動への取組」という項目では、教員も生徒もＢ評価で差はなくなった。

今年度は教員が「授業の進め方を知る」段階であり、生徒の道徳性を向上させるには至らなかったと言える。「教科化に耐えうる道徳の時間」を作るためには、今後も、道徳授業を実践し、学び続けることが唯一の方法である。